令和４年度　学校評価年度末総括

令和４年度重点目標～石見養護学校　学校運営方針「みちしるべ」より～

①コミュニケーション力について　　…自己評価「Ｂ」

〇めざす学校の姿：「保護者・地域と連携・協力して、教育効果を高め合う学校」

⇒　保護者向けアンケートより

・教職員同士、教職員と保護者、地域、関係機関との連携についての保護者評価は、肯定的評価が８３．３％であり、おおむね評価は高かった。
しかし、否定的な意見も少数あるので、保護者の方の思いやニーズを確認し、今後に活かしていけるようにしたい。

・地域へ出かけたり、地域の題材を取り入れたりすることへの保護者評価は、肯定的評価が８８．９％とおおむね評価は高かった。
しかし、否定的な意見も少数あるので、意見を伺いながら、さらに地域との交流や地域の題材を取り入れた学習を取り入れながら、本校の教育活動への理解啓発を広めていきたい。

〇めざす児童生徒の姿：「思考し、他者に伝え、共に学び合おうとする児童生徒」

⇒　児童向けアンケートより

・小学部：「自分の思ったことや意見の発表」「友達へ思いを伝えること」「交流学習における関わり」などの項目で「できている」と感じている児童が多かった。

・中学部：生徒数が少ないことや実態により、％の割合をそのまま評価の対象として考えることは難しい面がある。

・指導者側の評価としては、関わり方の整理やコミニュケーションツールの活用等の手立てにより周囲の人との関わりが広がり、成果があったと評価している。**（自己評価Ａ）**

⇒　生徒向けアンケートより

・高等部：「自分の気持ちや考えを伝えること」「相手の気持ちを考えた友達との関わり方」「様々な人と協力して活動すること」に対して、肯定的評価の生徒の割合が多かった。

・指導者側の評価としては、個々の実態に合わせたコミュニケーションツールの活用や生徒同士の考えや思いを伝え合う場面の設定や生徒一人一人と個別に考えを聞く時間の確保などの手立てにより、生徒の思いを引き出すことができ、成果があったと評価している。
（自己評価Ａ）

・寄宿者：舎の活動ごとのアンケートや学校のアンケートにおいて、生徒が自分の気持ちを伝えることができたと感じている生徒が多かった。

・指導者側の評価としては、「舎生会」において生徒自らの意見を具体的に取り入れた活動ができ、少人数であることを活かした活動に取り組み成果があったと評価している。
（自己評価Ａ）

⇒　保護者向けアンケートから

・「お子さんの自分の思いや考えを周囲へ伝える力」については、保護者の肯定的評価は、６６．７％、否定的な意見は２７．８％であった。
学校側の高評価に比べ、保護者が、お子さんの実態の変化を大きく感じられる程には達していないと思われる。

○めざす教職員の姿：「組織の一員として共に考え、よりよくしようと行動する教師」

⇒　教職員向けアンケートより～　職員間の関わりについて

・教職員間、管理職、相談しやすい雰囲気がある。
・休みを取った時の対応も助け合ってできている。
・ワークセンターさん、清掃員さん、支援員さんなどによる業務フォローに感謝している
・若手への配慮を感じる　　など
以上のような肯定的意見が多かった。
一方で、以下のような意見もあった。
◆他学部への意見が伝えにくい。働く仲間として共にワークなどをして考える時間があると良い。
◆人間関係が固定化しやすい。学部を超えて体制を入れ替えることができると良い。
◆児童生徒や同僚などに対しての言動などを振り返る時間をもち、人間関係の改善につながる機会がもてると良い。

・今後は、教職員同士が関わり、関係性を深めるような研修やワークのようなことを定期的に取り入れる機会や方法を検討したい。学部を超えた連携が可能となるつながりのある教職員集団を目指したい。
　また、人権教育の観点からも、教職員の人権教育の研修を積む必要性を共通認識し、研修を重ね、感性を高められるようにしたい。

②ＩＣＴ活用について　　…自己評価　「Ａ」

⇒　年度末評価参照
・校内の実態をみると、まだまだ不十分な点があるが、今年度の取り組みとして考えると、教務部を中心に計画的に研修も進められ、できているとの自己評価になっている。
今後、さらに活用を普及していけるように、具体的な取り組みを共有しながら活用できる場面を拡げていく。

③研修による専門性の向上について　　…自己評価　「Ａ」

（・ＯＪＴによる学び合い、高め合う。・自己目標に関連し研修内容を掲げる。）

⇒　年度末評価参照
・研究グループごとに特別支援ＣＤによる校内支援を受け、児童生徒理解の幅を拡げることができた。
・今年度、研究部の呼びかけの仕方を工夫したことにより、校外での研修を受ける教職員の数が増えた。また、研修後には、研究部たよりにて他の職員にむけて研修内容を還元できるようにした。
・多忙な中ではあるが、授業公開への日程調整を行うなどして、お互いの授業参観し学び合える体制が取れると良い。